

## 第10回 FAO 热帯林開発委員会 (CFDT) 等について

志間俊弘

12月初旬にローマのFAO本部に出張して、標記の会議に加え、第13回TFAP林業アドバイザーグループ会議及び第1回TFAPアドホックグループ会議の3つの会議に出席する機会を得た。これらの会議はその性格、メンバー構成等は異なるものの、今回の主要な議題はいずれもTFAP(熱帯林行動計画)に関するもの、中でもTFAPについての国際的な議論の場を提供することとなるコンサルタティブ・フォーラム(CF)の設置を巡るものであった。

TFAPは1985年の第7回CFDTにおいて採択され、FAO、UNDP等がスポンサーとなってスタートしたもので、これまでに86の開発途上国でTFAPを策定済みまたは策定中である。TFAPの内容をごく簡単にいえば、各国の森林・林業の状況、問題点及びその解決の方向等を明らかにするための調査を行い、この結果に基づいて各種プロジェクトを含め将来に向けて取るべき具体的方策からなる行動計画(TFAP)を策定し、これを国際会議(ラウンドテーブルⅢ)で先進諸国及び国際機関等に示して、これらの協力を得ながら計画を実施していくというものである。現在FAO内部にTFAP担当の組織がおかげ、各国・機関間の調整を行っている。

しかしながら、スタートから6年を経て、先進国、途上国双方からTFAPに対する不満が高まりつつある。例えば先進国の側からは、FAO主導の運営方法に対する不満、いまだに目に見える具体的な成果が得られない(例えば熱帯林の減少が拡大している)こと等、一方途上国側からは、先進国から途上国に押しつけるようなTFAPの進め方、TFAP策定後も期待したほど先進国・国際機関からの援助が増加しなかったこと等があげられよう。個人的には、これらの不満のかなりの部分は、スタート時にTFAPに過大な期待を抱きすぎた(一つのフレームワークに熱帯林問題の全ての解決を期待した)ことによ

---

SHIMA, Toshihiro : Report of the 10th Session of the Committee on Forest Development in the Tropics  
林野庁指導部計画課

るところが大きいと思われるが、いずれにせよ今回の会議における議論には、これらの不満が大きく反映されていた。

## 1. 第13回 TFAP 林業アドバイザーグループ会議

この会議は先進国、国際機関、NGO の林業及び関連分野の専門家グループの非公式な会合で、TFAP に関する助言、提言を行うことを目的としている。日本からは JICA 参与の神足氏がアドバイザーとして参加される（今回は欠席）。

今回の会議では、2つのサテライト会議が設けられ、1) UNCED の森林に関するアジェンダ 21について、2) TFAP のための協調体制についての検討が行われた。その結果を要約すると次のとおりである。1) アジェンダ 21については、現在のドラフトにある5つのプログラムの焦点及び優先度が定かでなく、また熱帯林のみが中心で、酸性雨や大気汚染による被害等先進国自らが取り組むべき冷温帯林の問題への取り組みが不十分。従ってアジェンダ 21に含まれる森林以外のプログラムに比べて、各国指導者等に与えるインパクトが弱いと思われる。2)「協調体制」については、現在の体制では外部からの TFAP への参加・支援を得ることが困難との認識から、FAO から独立した TFAP のための事務局を新たにつくり、これと CF とを関連づける。

このほかにも、1週間にわたって様々なテーマについて議論されたが、ここでは省略する。議論の内容は別にしても、その会議が非公式なものでメンバーが個人の資格で参加していることから、自由な雰囲気で前向きな議論が進められていることが感じられた。しかし逆にみると、オブリゲーションを負わない議論・提案であり、また会議の非公式な性格から、（対 FAO ということを除くと）これらの提案が今後具体的にどういう風に生かされていくのか少々疑問も感じられた。また、この会議における途上国の役割が、単なるオブザーバーとして招待され、それぞれの国の TFAP の進捗状況について報告するといった程度にとどまっているため、一部の途上国からは批判を受けている。

今回の会議では、今後のグループの方向として、TFAP を実施している国々への直接的なアドバイスにより重点をおくことが提案された。これに加えて今後設置されるであろう CF の性格によっては、この会議の役割も変わっていくことが予想される。

## 2. 第1回 TFAP アドホックグループ会議

この会議は、11月に開催された第100回 FAO 理事会でその設置が決まったもので、これまで何回かの会議で検討されたものの結論に至っていない CF

の設置に関して討議を進めるのが主要な目的である。CFについて、これまでの会議でその機能に関しては合意に達した（ものとされている）ため、このアドホックの主な議題は、CFのメンバー構成と、いつどうやって（資金・組織も含めて）CFを開催するかということである。

CFの設置については、途上国が基本的に反対の立場または消極的な態度を表明しており、これに関する議論を遅らせている。その背景には、92年のUNCEDをひかえて、途上国が自國資源の開発利用に対する先進国からの干渉に関して警戒感を強めていることがあげられる。今回のアドホック会議でもいくつかの途上国から、熱帯林は先進国が排出したCO<sub>2</sub>を吸収し温暖化を防いでいるのだから、その保全に先進国が資金を出すのは当然、といった趣旨の意見が聞かれた。今回CFの設置を討議している中で、途上国のみで熱帯林の問題を討議するためのフォーラムを設置するという提案がなされ、さしたる議論もなされないままに途上国間で合意されたのも、こうした反発の現われと思われる。もう一つ会議で多く聞かれた意見に、CFの設置等いわば地につかない議論を繰り返している間に、実際に熱帯林の保全のために努力している途上国をもっと支援すべきだというものがあった。この両者は決して相反するものではないが、感情的にはうなずけるところがある。

会議がわずか1日といったこともあるが、肝心のCFの設置に関しては、そのメンバー構成について「できるだけ幅広に。NGOはオブザーバーで。」という点が合意されたのみで、その他の事項は92年2月開催予定の第2回会議以降に持ち越された。

### 3. 第10回FAO熱帯林開発委員会

この委員会は、FAO憲章に基づき1965年に設置された熱帯林に関する専門諮問委員会で、2年に1回開催されている。従って、議事の内容は主として技術的な（いわゆる林業技術から社会経済的な問題まで含む）ものであり、通常いくつかの課題に関して事務局が準備した資料をもとに討議が進められる。

今回の主要なトピックは、①TFAPの実施、②熱帯林の持続可能な経営、③熱帶諸国における林産物加工であった。しかしながら、先立って開かれたアドホック会議の余波を受けてか、議論のかなりの部分が①に集中し、最も議論が白熱したのもこのトピックに関してであった（もっともその内容は、これまでの繰り返しが多かったが）。ここで4日間にわたる討議の内容及び結果を報告するのは困難であるが、一例として③に関する議論の結果（主としてFAOに対する提言・勧告）の一部を紹介すると次のとおりである。○貴重な

熱帯林資源を有効利用するため、廃材の利用と紙などのリサイクルの一層の推進を提唱。○環境に与える影響が少ない伐採搬出の方法に関する調査研究の強化。○特用林産物（NWFP）が熱帯林の持続的な経営と地域住民の経営参加に果たす役割の重要性を認識し、この分野の活動の強化を提唱。

これをみて分かるように、いずれも重要なことではあるが、目新しさには欠けるといわざるを得ない。その理由は、一つには問題自体の難しさから、これといった新たな解決策が見い出せないということがあるが、もう一つには議論の土台となるペーパーが会議の直前に配布され、じっくり検討する時間がなかったこともあげられよう。

---

## 新刊紹介

◎熱帯林のすがた 内村悦三 B6版 172 pp. 研成社、東京、1991.9.30刊  
¥1,300（税込み）

「地球上のある地域を帶状に占める熱帯圏に存在する自然の姿、とりわけ森林に関する姿を内外から見るのが本書のねらい」だとプロローグに述べられているが、著者が30年にわたって実際に訪ねた熱帯林のいろいろな姿を中心に、関連した話題が添えられた好著である。まず「熱帯林を育てる自然環境」（2章）では、気候・土壤についてこん切に解説し、そのような環境に育つ主要な熱帯林の特徴が述べられる（3章）。もともとタケの専門家である著者は、次の4章で熱帯林の重要な構成植物であるタケ類の特徴を興味深く述べる。5章「緑が映えるラ・セルバ」では、専門家として2年余滞在したコスタリカの森林と、その保全にまつわる試みが紹介される。続く3章（6, 7および8章）では、アフリカのナイジェリア、タンザニアおよびパキスタンの半乾燥地における木質エネルギー依存の実態と、緑の戦略を述べる。ナイジェリアについては、現地でいうサバンナ（林）の実態を述べ、そこで植栽候補樹種の解説もつけられている。9章では森林と農業の関わりを取り上げ、両者の組合せによる保続的な緑の生産が可能であることを事例をあげて説く。そして、減少しつつある熱帯林をどうすべきかというエピローグでは、天然林の更新方法の改善と、人工林造成の考え方、アグロフォレストリーの役割を強調している。

（浅川）